

平成 28 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	2	講習名	英語学、英語文学及び英語教育の理論と実践				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者		受講人数	講習形式	試験方法
スティーブ ン・ローゼン 高橋 渡 吉本 和弘	広島 キャンパス	6 時間	小学校教諭、及び中学校・ 高等学校英語科教諭		30 人 (最少開催 人数 3 人)	講義・ワ ークシ ョップ	筆記・レ ポート
開催日	7 月 3 0 日 (土)			予備日	7 月 3 1 日 (日)		
【到達目標】							
英語教育の背景となる基礎理論と方法論を学び、実践への応用を図るための知識と情報を得る。							
【講習の概要】							
1) 言語と思考と文化の関係を論じる言語理論について学ぶ。2) 文学作品の精緻な読みの実戦から、英語圏の文化、社会、歴史について学ぶ方法論を身につける。3) 授業に演劇的手法を取り入れる方法について知ること、受講者の授業実戦へのアイデアを提供する。							
【講習の内容】							
第 1 部：“Language, Mind and Culture” (担当：S. L. ローゼン)							
語学教育と異文化コミュニケーション教育にとって重要となる言語理論に焦点をあてる。言語と思考と文化の間の関係についての理論、特に、ソシュール、チョムスキー、ウィトゲンシュタイン、サピア・ウォーフの仮説、比喩研究など、重要な理論を扱う。二日目は、言語理論から得られる知見の英語教育への応用を試みる。語学学習における文化的、言語的意味の重要さの点で、多くの言語理論の知見とどのように一致しているかを示す。使用テキストは次のサイトで 7 月 15 日より、無料入手可能である： http://stevenrosen.yolasite.com 本講習は英語で行われる。							
第 2 部：文化・社会・歴史的背景の中で読む英文学 (担当：高橋 渡)							
アイルランドの作家ジェームズ・ジョイスの短編 <i>Dubliners</i> (『ダブリン市民』) 中の短篇 ‘Clay’ を丹念に読むことを通して、植民地文学について考察する。講義では、基礎知識として、アイルランドの歴史と文化、ジェームズ・ジョイスについて簡単に触れた上で ‘Clay’ を詳細に読み、植民地文学について考察する。テキストは当日も配布するが、あらかじめ下記の URL のトップページに貼っておくので前もってダウンロードして読んでおいて下さい。 * URL: http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~takahasi/seminar/index.html							
第 3 部：英語教育に演劇を取り入れるためのワークショップ (担当：吉本和弘)							
県立広島大学で実践している英語劇の上演実績の紹介、パフォーマンスを行うイベントの教育効果についての研究報告などを紹介し、演劇が学習者に与える有用性、語学習得への効果、演劇を授業に取り入れる際の様々な問題点とその解決方法を考察する。その後、ワークショップ形式で県立広島大学での演劇を用いた授業で実践している、各種のアクティビティを体験してもらう。さらに演劇を英語授業に導入するためにはどうすれば良いか、問題点を挙げ、意見を出し合い、実現可能性を探る。							
【備考】							
試験の際、講義テキストとノートの持ち込みを認めます。(ローゼン)							
動きやすい服装 (スーツ、スカートではない) で受講してください。(吉本)							